

令和5年度 第5回香美市教育振興基本計画検討委員会

日 時 令和5年5月30日（火） 18時00分～20時00分

場 所 香美市役所3階会議室

出席者 中村委員長、内田委員、市原委員、高橋委員、上村委員、植村委員、中山委員、
楮佐古委員、尾形委員、山本委員

欠席者 福田委員、國光委員、上島委員、山下委員

内 容

①開会

②議題

・次期教育振興基本計画骨子案について

③その他

開会

14人中9人の出席

教育長あいさつ

白川教育長 皆様こんばんは。日ごろは香美市の教育発展のためにさまざまな分野や立場や、さまざまな機会を通じてご尽力をいただいておりますことに心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございます。また本日、本当にお忙しい中をおいでいただきましたことにも感謝を申し上げます。第2期香美市教育振興基本計画を策定するにあたりまして、本日お迎えをいたしました検討委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただき、今後5年、10年先の社会を見据えた教育振興基本計画をつくらなくてはならないと考えておりますので、ご意見をいただいていたいいものにしていきたいと思っております。5年、10年経てば世の中は一体どんなに変わっているんだろうかと予測不可のVUCA（ブーカ）な時代というところがございますので、高い立場からいろんなご意見をいただけたらありがたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

事務局 それでは早速、議事に入りたいと思います。会議の議長は本会議設置要綱第6条の規定によりまして、委員長が務めると定められておりますので、中村委員長にお願いしたいと思います。よろしく願いします。

中村委員長 それでは早速、次期教育振興基本計画の骨子案について議論をしたいと思いますが、まずは事務局から骨子案の説明をお願いいたします。

事務局 説明は本日お配りしておりますA3版の施策の全体体系の資料を基にしまして、担当者から現在の骨子案をご説明させていただくことになっております。学

校教育班、幼保支援班、生涯学習振興課の各担当から順次ご説明させていただきます。委員の皆様からご意見を頂戴したいと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局説明

中村委員長　それでは今のご報告に関して何かご質問やご意見ございませんか。

内田副委員長　どこからお話していいのかというのでちょっと迷っているんですけども、まず単純に質問、今ご説明を受けてちょっと私の理解が及ばなかったところですけども、「つながる！」というところの（３）の③多様な実践的学習や体験活動の拡大というこの③と、「つくる！」の（１）の地域社会の課題解決につながる実践的教育の推進というこの③の違いがよく聞き取れなかったんですね、私自身が。そこの違いというのをどういうふうに理解されているのか、ちょっとその単純な質問からなんですけど。

事務局　「つながる！」の（３）の③につきましては、これまで防災教育の推進ということで、地域防災と学校がいかに連携をしながら、そこを進めていくかというところでした。そこに非常に特化しているところで、やはり各地域によって抱えている課題というものが違っておりますし、その地域で地域と連携しながらどういったことを進めていくのかというところにつきましては、防災に限ったことではないのではないかとという認識で、そのような文言にさせていただいております。

「未来を創る！」の（１）の③につきましては、どちらかという和学校教育の生活、総合的な学習の時間と教科領域の中で子どもたち自身が地域社会の課題を見付け、そこにいかにアプローチしていくのか、その学びがやがては社会にしっかりとつながっていく実践的な取り組みにしていくというところで整理はさせていただいておりますけれども、確かにこれだけ見ると。

内田副委員長　やっぱり同じではないかと思ってしまうんですね。

事務局　そこをぜひまた、さまざまなご意見をいただいて整理をしていきたいと。

内田副委員長　協働のほうの③は体験活動の機会の拡大と言っているわけですけども、むしろ体験活動を大事にしようと思っているのかなと思っていたんですけども、あまりその部分の説明はなくて、つまり今までは防災だったけれども地域の課題というのは多様にあるのでというご説明なんですけど、言いたいのは実践的な学習や体験活動の機会というふうに言っているという意味では課題がどうかというよりも、むしろ学習方法に少し特化したようなイメージで、文言からは理解したんですけども説明のところだと両方の③がちょっと区別がつかないと思って聞いていたんですけど。

中村委員長　説明を聞いていても分かりにくいのが実践的な学習というのと、実践的教育というのも概念的にどういうふうに区分しているのかというのがよく分かりづらいですし、実践的に学習するというのと体験活動というものもどこまでどういうふうに分けているかというのもよく分からないので。ただ、構造的に分

類するのか、機能的に分類するのか、領域的に分類するのかが分からない概念になっているということなんだと思うんですけど。それを分けるのか、それとも学習主体のほうから考えて言語を構成するのかということの方が分かりづらくなっているのかなと思います。同じ領域が2つ以上の項目に入ってもいいとは思いますが、そしたらどうしてこういうふうに分けているのかという説明は要ると思うんですよね。

ちなみに例えば、地域の産業とか経済活動とかの構造とかを理解するような教育を実践的に行うというところになるんですかね、この領域だと。今の上のほうに入ることですかね。

白川教育長 下ですね。

中村委員長 というふうには微妙になるんじゃないかなというふうにはちょっと思っているんですけど。

内田副委員長 一番上のところの多様な教育的ニーズにある子どもへの切れ目のない支援というのは、この辺りのことですが、先ほど架け橋プログラムのお話がちょっとありましたけれども、縦の軸の架け橋と横の軸の架け橋ということですかね、面的な架け橋。つまり教育じゃなくて福祉の領域だとか、産業の領域とか、横の架け橋というのをむしろどうかけるかというほうが今大事になっているのかなと思ったときに、ご説明だとまだ育ちの連続性みたいな架け橋ですよ。保小中、高校、そのイメージは大事なんですけれども、もう少し多様性と包摂性といったときには別科の領域を意識した支援というものが必要なのかなというふうには考えているんですけども、そうするとそれはこの主体ということに置いておいたほうがいいのか、先ほど特別支援のこととか、子育ての不登校の窓口だとか、そういうようなところのお話、あるいは他機関との連携とかというお話がございましたけれども、そちらのほうに置いておいたほうがいいのか、その辺の先ほど委員長がおっしゃいましたけれども同じことが出てきてもいいんですけども、どういうふうにそこを整理するかというところで、自主、学ぶということに入っているといいんですけど、多様な教育的ニーズに応じるという理解ですよ、貧困とかヤングケアラーとか不登校とか書いてありますよね。どこに置いたらいいのかなということですよ。こちらに案があるわけじゃないんですけど感じたことです。

中村委員長 また再考してみるようにします。今の段階で答えられるイメージとか、領域分けとかに関しては再検討という形で。どっちかというところなんですけども。

中山委員 ここで書かれている架け橋期は文科省が言われている縦のつながりのことを言われていると思うんですけど、私は逆にこれを読んだときに説明のなかったところで悩ましいなと思ってしまったのが、同じ「学ぶ！」の(2)番の活力あるというところの主な施策の③に「資質能力の基礎を培う就学前教育」と教育内容の充実というような感じで読み取れるわけですよ。それが右側の主な取り組みになったときに、どれが具体的につながるんだろうと思うと、④の保幼小連携協働とかになるんですかね。そうなったときに実は資質能力を言っ

て、就学前教育とうたったときには、どちらかというとなり橋期のほうに私はすごく強い線を描いてしまうというような感じがあつて、説明はなかったんですけど、主な施策の表現をはっきりさせたがゆえに右側の取り組みと線が結び難くなってしまったなという印象を非常に受けています。なので、上のなり橋期がすごく連携、接続というつながる部分だけを述べているけれども、実は接続というのは教育内容をつないでいくということを書いていて、お互いの保育や授業の改善だったり、充実だったりということによって言っているのだから、それをいうと今言ったような一段の下に書かれている表現のほうが、資質能力を培う就学前教育のほうに実はなり橋期の取り組みもうとしている内容に近いのではないかなという印象は非常に持っております。

白川教育長

そこはちょっと整理していきたいところですね。そこは特化してやっていることで、なり橋期のプログラムにやっと着手し始めた、今年初めてということで、今日それこそ講師の先生に来ていただいて、保育園の実際授業をしているところを見ていただいて、本日の保育活動について書いてある目当てはあるんだけど、10項目あるうちのどの視点で今日は見ていこうか、そこを明確にした保育活動をしていくことが大事である、その辺りからご指導いただいているということですね。ですから、香美市の就学前教育を大きく変える必要があると。先生は非常にご熱心で手を抜く人は一人もいなくて、そこは本当にありがたいんですけども、どうも時代の変化と大分ずれができてきているところは今やっと関わることができ始めた、園長先生たちのご理解でということなので、ついついそれが④のところ強く出ているということはあるんです。(2)の④に埋めてしまうと埋まってしまふかなとか、そういうことも思ったんですけど、ちょっとまた再考してみたいと思います。

中村委員長

記述の仕方がすごく難しいんですけど、分類の構造が。特に視点のところ目標を基本的に出しているわけですね。それから方向性と施策と具体的な取り組みというのがあるんだけど、基本的には教育活動とか学習活動というのは目標がきちんとあつて、それに対してどういうふうにするかなので、目標のところ今言われたような項目がきれいに分かれていて、全体の構造が理解できるというふうになればいいんですけど、そうはこれは書き方からいってならないわけですね。その部分でどうしても具体的な取り組みのところ重なったり、相互にクロスしたりとかということが出てきちゃうんだけど、目標のところを見るときちっとこういうことを目指しているんだというのが分かるというふうになればいいんだと思うんですね。結局どうして目標とか取り組みがうまく実行できないかという、目標とビジョンが共有できてないんですね。だから具体的な取り組みのところばらばらになってしまうので、デジタル化の問題でも現場でいうとどういうことでやろうと思っているかというのは変えられて、ばらばらに動いてしまうということになるので、最後はそのところだと思ふんですね。目標のところきちっと共有できていて、どういう方向性で実行するかビジョンというのが共有できていけば取り組みのそこ

ろで二重、三重にクロスしていてもそこがぶれないと思うんですけど、そこが
どういうふうな構造で書くかというところだと思うんですね。これはちょっと
分かりにくいと思うんですけど、少し工夫をしていただけるといいのかなと
思います。

保幼小中とかの連携のことに保育の領域の教育の充実というのが解消され
るわけではないので、その部分の構造を両方にうまく書いて、しかも架け橋
化するみたいなのがはっきり分かってるような書き方にしたほうがいい
のかなと思います。ここの大きな目標からいうと、それがすぐには読み取れ
ないので。3月の段階よりは全体像はよくなっていると私も思うんですけど、
随分工夫されているというのはよく分かるんですが、細かいところで微妙な概
念のずれとかが出ているんですけど、それは致し方ないことなので。他にござ
いせんか。

白川教育長
中村委員長
上村委員

実際の学校はどうか。

学校現場のほうのご意見を伺いたいということなので、もしよろしければ。

ぱっと見で思ったのは具体の言葉というものが以前あったものが多様な捉
え方というか、非常に幅広いところがあるので別の言葉に置き換えていったと
いうところがまず感じられます。捉え方が広がっていったら結局、何をしたら
いいんだみたいのところになってくるので、そのところは心配なところす
し、しっかり読み解いていったらいい話ではあるんですけど。例えば今回はキ
ャリア教育なんかという言葉がなくなっていますよね。ここなんか「学ぶ！」
のところの基本目標なんかを見ていったらキャリアに非常につながった内容
であるということはよくよく分かります。分かるんですが、今まで脈々と大事
にしてきて、ここまで来ていたという、そういうふうな言葉なんかであえて落
とし込んでいくような言葉が中にあるでもいいんじゃないかなというふうに
思ったりもしました。具体の言葉でいったら、残っている言葉でインクルーシ
ブ教育なんかという言葉が中にありますよね。こういうふうな言葉が残ってい
たり、言葉の中ではよく分かって、コミュニティースクールとか、地域学校協
働本部とかというようなところは具体の言葉にはなっているので、こうやって
あればとてもこのところを言っているということは分かりやすいというふう
に感じております。

それと、最初のほうが自主から主体に変わっていったのは、前の会でも自分
は思っていたところなのでいいと思いますけど、中学校のほうは自主、創造と
いうところが3中学校はいつも持っていた言葉だったので、そのところの捉
え方をもっと広げて学校がこれから取り組んでいければなというふうには思
いました。

植村委員

小中学校は自分たちが学校経営するときには、その指針となる学校経営計画
というものを作成しないといけなくなっています。その中には大きな目標だ
とか、こういうふうに主な取り組みというものを表記をして整理をしております。
例えば自分たちの学校の取り組みを振興基本計画に照らし合わせたときに、こ

れはうちの学校はやっぱり公立の学校で設置者が制定する振興基本計画に基づいて自分たちのほうは施策の取り組みを考えていくというところがあります。もちろん自分の学校の実態に応じての教育内容の違いというのはそれぞれの学校があると思うんですけども、そういった意味から考えると振興基本計画の中で、自分たちの学校に主体性がないというわけではないんですけども、振興計画の中で自分たちの学校経営計画の中に落とし込んでいるものは、それにずれもないというところから見ると、僕は施策の体系を今ご説明を聞いたり、表記を見たときに、当然、先ほど上村さんがおっしゃったような解釈の広がりというところはすごくあって今、自分の学校の取り組みがどこに当たってるのかなみたいなところを考えながらやっていかないとはいけなかったというところはあるんですけども、でも広く考えてみれば自分たちの今の教育内容がこここのところにつながっていくのかなというところで、自分としては解釈はできているつもりではいます。申し訳ありませんけど。あとは、それをしっかり整理して教育の充実に関わる専門職である自分たちの教員隔々にどうやってこれを浸透させていくのかなというところも問題になってくるのかなと思っています。

ちょっと関係ないんですけど、学校教育というわけじゃないですけど、どの分野に当てはまるのかというところも少し考えているところなんですけれども、教育のキーワードが探求ということになっています。この探求というものを学校教育と、社会教育の分野で育ていける、そういうふうな何か教育風土がこの香美市にできたらなというようなことで、例えばスポーツ少年団なんかは歴史があって、体育の授業なんかでもですし、昔は遊びでやっていたこと、体育の授業で扱っていたことがスポーツ少年団とかいうような組織が活発に大きくなって行って、水泳をやる子とか、サッカーをやる子とか、野球をやる子とかがいっぱいやるわけですよ。あれも我々学校教育との関係性でいえば制約のない時間を活用して、その能力を伸ばしていくとなったときに、例えば探求の能力を伸ばすために学校教育だけではなくて、社会教育からのアプローチとしてどうやって探求の能力を伸ばしていける、そういった風土がこの香美市にできたらななんていうふうな思いをいつも抱いております。スポーツ少年団という例を出しましたけども、今エコクラブなんかの取り組みもありますよね。ああいうふうなところでの多様なところで、ここに書かれてあるような実践的な体験だとか、学習だとかといったことなんかもできるし、地域社会の解決に向けた実践的な学習活動なんかも学べる機会なんていうふうなものが、もちろん子どもさんたちが学校以外の時間ではそういうふうなスポーツだとか、塾だとか、いろんな習い事だとかとあるんですけど、そういったことの1つの選択肢としてそういうふうなものが何か教育風土の1つに落ち着いていければななんていうふうなことを考えたときに、果たしてそれはどこの項目に入るのかなみたいなところですね。恐らく創造、あるいは協働というところに

なってくるかもしれませんが。ちょっと自分のテリトリーを置いておいて社会教育の場に踏み込んでしまいましたが、そんなことも感じました。

白川教育長 よってたかって教育の神髄ですよ。ありがたいご意見をいただきました。悩んでいたところなので。

植村委員 推進監もいらっしゃいますし。

中村委員長 その他の領域の学校教育、特別支援、高校とかどうですか。

高橋委員 山田特別支援学校の名前がある部分の①②とかですけども、山田高校さんとかの課題とか、ここでまた違う意味が伝わるのかなと思ったりします。どちらかという、「学ぶ！」の(1)の③の共生社会ですけども、ここで出すうえで必要な●●になるのかなと思ったりして、その辺りの整理はどうしたらいいのかなと思って今見ていたところです。学ぶとともに創るの(1)の②多様なとか、ここは外国人とかそういったところがメインかなと思いますけど、障害のある人もありますし、いろんな人がいて共生社会というところで、それをどこに位置付けて、山田特別支援学校というのはどこに位置付けていくのかなとちょっとはつきりしていませんが、ちょっと整理したらいいのかなと思いました。

市原委員 この委員会に初めて参加させていただいてまだ十分この施策全体が理解できないところなんですけれども、たしか7～8年前ぐらいに「香美学園都市構想」という言葉が出てきたかと思います。その元というところが一体どういうものなのかというところを私も非常に考えておまして、私自身が理解していないところもあります。それから「探求のまち」という用語も出てきたかと思います。これは割と近年出てきたところで非常に面白いなというふうに捉えておまして、この探求のまちと香美学園都市構想を合致させるのであれば、基本理念というのは非常に素晴らしいなと思っておまして、「郷土を愛し、未来を創る人づくり」となったら、これは学校教育を核としてこの基本計画というのが策定されていくんだらうなというふうに考えていますので、保幼小中高大と一貫したものが探求をコアとして一貫としたものが出来上がったなら非常に面白いなと。そしたら探求をコアとしているわけだから一定、小学校のところまで、中学校のところまで、それから高校でここまでというふうなものも出来上がるのではないかな。そうやってきたら小学生がそのまま中学校へ進学し、中学生が山田高校へ進学する、地域の子どもたちが地域で育っていくというふうなことにつながるのではないかなというふうにも考えております。

例えば、この全体計画の中で基本理念と基本目標というのがありますが、ここの「学ぶ！」と「未来を創る！」というところの、こうやってさび分けられているんですけども結構近いなというような印象を持っておまして、「つながる！」というのは環境整備だと思うんですけども「学ぶ！」と「未来を創る！」というところの少しこの当たりでビジョンの明確さというところはどうかというところはあるのかと思いますね。そういうふうな印象を持ちました。

中村委員長 全体に皆さんの意見を聞いていると、同じようなことを目指してご発言されていると思うんですけど、今日は大学のほうの関係者はあまり来ていないので、どっちもの立場から言わせていただくと、大学があるまちというのが高知の中でほぼないので、その構造がそれ以外の教育機関との連携で資するようにどのように学習や教育というのが保障できるかということなんだと思うんですが、基本的に子ども時代にとっては学校教育機関というのがそれなりに憧れじゃないと駄目だと思っているんですね。そうしないとそこで学習しようということに期待をして学ぶことに意欲を高めていくというような構造にならないと思うので、そこがうまくつながるように環境を保障してあげるというのが制度的な問題だと思うので、それが学園都市構想の中でうまくできるようにしてほしいと思って10年ぐらい前からずっとそのことを教育委員会にお願いしてきたので、できたらそれが具体的なビジョンとかになって、皆さんに共有されるといいのかなというふうに思っています。

小学校のほうからも探求型で社会教育機関とつないでとか、それぞれの機関からいろいろご発言いただいたんですけど、私はやっぱり社会全体がデジタル・トランスフォーメーションしているので多分、今からの子どもたちは1人1台の端末で学習しているというだけじゃなくて、コロナで予約を取るにもそういうデバイスを使わないと取れないという状況になったり、確定申告するにもスマホやパソコンでやらざるを得なくなったりとかということがもう当たり前前に多分なるので、当然すべての機器を使いこなさいと情報の獲得も地域の獲得も学習そのものも主体的に行うということもできなくなるんだろうと思うので、やっぱりこれまでの基礎学力という問題と高度に発達した社会におけるデジタル機器を駆使してどのように学習や地域でいろんな活動を保障していくのかというつながりとかも、それが十全に使われないとできなくなるんだろうというふうに思うんですね。だから両方をどういうふうにクロスポイントでちゃんとシステムを保障していくのかというふうになると、香美市の場合は私は具体的にイメージがわくのは図書館ができたばかりで、各教育機関と図書館をどういうふうにもうまくつなぐかということがすごく重要なので、3月までの会議でもちょっとお話が出ていましたが、学校教育機関の中で図書館をうまく利用して、しかも教室でデジタルの操作でそこで検索や、読みたい本を出したり、情報を出して学習していけるような子どもたちを育てていって、上位の学校、中学校や高校、大学があるわけですから、うまくつなぐというようなところがどれだけ組織化されているかということがポイントになるのかなと思うんですけど、この全体のイメージをお聞きすると、そこまで入っているのかなと思ったんですね。図書館の資料でも。ちょっと年に何回か行ったらいいぐらいの感じで思っているのかなと。それだと多分、子どもが主体的に学ぶときに自分の学習の履歴とかをブログで読んで、どういう学習が自分に一番向いているとか分析できるような子にはならないんじゃないかと思うので、やはりもうワンランク、イメージを具体化してビジョンが共有できるような像を思い

浮かべて共有できるような区分にさせていただいたほうがいいのかなど。今のお話を聞いて、各学校のほうから言われていることはそういうことなのかなどというふうにちょっと思いました。

ちなみに今いろいろ言われているんですけど、図書館のほうと学校のほうのシステムは融合するように、少しお金をかければレベルアップするんじゃないかということですが、何か進みそうなんですか。あれがあるのとないので随分違うのかなと思ったんですけど。

事務局 検索システムはもう普通に検索はできますよね、ネットで。それだけです。
中村委員長 学校のほうから予約をしたりとか。

事務局 予約はできないです。図書館自体に予約というのがするのが難しいんですよ。予約をかけられると、それを借りにきた人とのタイムラグとかがあって、予約というのはなかなかできないというふうに図書館の職員のほうからは聞いています。

中村委員長 3月までに問い合わせをするというのは、あれからは進んでないということですか。

白川教育長 資料自体も少なく、もうちょっとそろえないといけないというところはあります。香美市の場合は学校図書館も結構充実してしまっています。

中村委員長 すみません、図書館の話になってしまったんですが。

白川教育長 この課題です。図書館ができたのでという説明もあったんですけども、今、中村先生からのご指摘のように図書館ができたことで次どういうふうにかちづくりへつなげるかということも迷っているところではあります。

尾形委員 私も今日初めて参加させていただいてこれまでの議論のいきさつが全く分かっていないので見当違いなお話を申し上げたら申し訳ありませんけれども、ちょっとこれを拝見して、せっかく図書館ができたのにあまり出てこないというのが率直な感想で、できたことでゴールではなくて今からスタートというところで、図書館ですので幼児教育とか学校教育に直接の主たる存在にはなれないかもしれないんですけども、逆にすべての項目に多分、図書館として関わりを持つフックはあるような感じがしていました。インクルーシブの教育もそうですし、ヤングケアラー、不登校の問題とか、今そういうことにも公共の図書館は関わっていかうということで県立図書館とかでもそういうことで関係機関との連携とかを積極的に進めようとしております。香美市も素晴らしい図書館ができて素地ができていますので、そこを活用しない手はないと思いますので、ぜひそういう機関と学校とも大学とも連携をしていただいて、ぜひ図書館を使っただけならなという感想をこれを見て思ったところでした。

中村委員長 全体に通してご説明いただいて少し私は思うところがあるんですけど、これは全然違う違和感かもしれないですが、今、学校の諸機関の方々からもいろいろご発言いただいたんですけども、基本的にこれができる教育委員会ベースで教育基本計画を立てなさいということで、私も前の教育委員会のころからずっ

と関わってきて、これを早くつくりましょうということをお願いをしてきたので、非常にうまくいろいろ運営されていると思うんですけど、今回の全体の構造で主体性とか地域の未来をつくっていくとかというようなイメージでいうと、上から与えられて区分されて教育目標とかが下ろされてきたものを各学校がそのままらってやっていくというようなことはちょっと違うのかなと思っていて、むしろ子どもとか各学校が自分たちの思い描いている未来像とかと、これがどう合うかということで、むしろ自分たちのほうから取りに行くとか、与えられた教育を受けるというのではなくて、探求型というのは自分から学習したいことをしていくということなんだと思うので、そこを乗り越えるようなイメージや表現というのがどこかに入ったほうが香美市の目指している学園都市構想なんじゃないかなと思うんですけど、それがちょっと私のイメージでは違和感がまだあるかなと。与えられたものでやっているような教育というようなイメージに捉えてしまうというか。むしろ地域の方が国や市が支援していなくても自分たちの学校の地域はこういうことを未来像では目指すから、どこかからお金を取ってきたり、寄付してでもやってもらいたいというぐらいの感覚なんだろうと思うんですね。ここで書いてあるような意味というのは。そういうことを目指すようなことが理解できて、そういう子どもたちを育てるというか、●●が子どもを育てるということなんだと思うので、その辺りのところのニュアンスがちょっと入っていたら、この目標値とビジョンに関しては少し具体的になるのかなというイメージがありました。もともと描いているところが違うのかもしれませんが、どうも私は探求型とか、新しいデジタル教育とかいうのは、そちらの方向性なんじゃないかなとちょっと思っているのです。

白川教育長

香美市の経営ビジョンとしては、やっぱり郷土をつくる、郷土のために貢献するとか、郷土を活性化していける、そういう人材を育てて、香美市のまちづくりは人づくり、人づくりはまちづくりなんですというところに結構、今、人口減少のこともございますし、軸足があるというのは1つあります。学校の先生たちは異動するけども、いろんなところから来てくださって頑張ってやってくださって異動もするんだけど香美市においては香美市のことをまず、それだけを考えなさいという意味では全くなくて、香美市が考えられるのであれば新しい居住地に行ったときに、きっと香美市で考えたノウハウというのは新しい居住地で自分の世界を築いていくのに、そのまま活用できますので、ただ香美市としてはまちの活性化を願ったときに郷土を大事にするということ、それから自分から課題を見つけて新しい香美市をつくってもらいたい、そういう人を育てていきたいと思いますというのが大きいところであって、そこから学校教育、生涯学習、就学前教育として学校の支援できることは何かと考えたものではありますがけれども、言われるようにこれをやってもらいたいというのも大分入っている感じにはなっています。

中村委員長

思うところは同じだと思うんです。だから表現の仕方なんだろうとは思いますが、今言われたようなことでいうと人口は減少してますよね。少子化対策

はうまくいってないですね。数値として出てきて、大学を誘致してこれだけの学生数というのは増えているにも関わらず一貫して減少しているわけですから対応はしないといけないと思いますが、ここでいう話であれば、ここで目指しているような学園都市とか探求型の自由な教育というか、子どもが市のことをよく知って育とうとしたときに、もっと上のレベルの教育化した普遍的な教育や学習というのを目指したときにどんどん出ていってもらっても構わないので、ただし、世界で見ているいろいろやってみたらやっぱりこの教育がよかったなど。自由で妨げられなくてほとんどのことで支援してもらえて、他のところと比べてもここがよかったなと思えるような振興基本計画であって、そういうことを支えるような環境をつくって出せる人たちということなんだと思うんです。そうしたらそういう人たちは多分どこに行ってももう一回帰ってきてここで住みたいなと思うと思うし、ここの教育がよかったということでここで子育てしたいとかと思ってくれると思うんですね。だから私はそういうイメージなんです。ふるさと教育を通じてそういう構造をつくるというのは、自由に旅立ってもらってもいろんな力はある、いかになくいろんなところで発揮していただくんだけど、やっぱりどこかでここがよかったなというところになって帰ってくる人が多いというようになるところになればいいんじゃないかと思っていますんですけど、イメージ的には。

白川教育長　それで、未来を創るの学園都市構想、山田高等学校さんは今、成果がすごく出ている中で、これは山田高等学校だけの課題でなくて全高校が多分、志望者数がこれまでイメージしてきた地図とちょっと違う感じになられていっているという課題なんだろうとは思いますが、創造のところの(2)をここをどういうふうに思い描いたらいいんだろうというのは私たちもうまく描けなくて、ご意見たくさんいただいて、今、中村先生が言ってくださったような自由な雰囲気の中で学園都市になるんだというようなものがここに落とし込めたらいいんだけど、どうすればいいのかなというところが一番の悩みの種なんです。先ほど高橋校長先生からございました内容につきましては、山田高等学校へ行っても、山田特別支援にしてもどこにも入ってきていただいているのでインクルーシブのところですか、学びの接続のところ、特に多様などか言われる辺りは現実にはいっぱい助けてもらっているわけですが、それはそれでもうそこでこの中に含まれていると。ただ、今言う学園都市構想となったときにはみんなの学校の名前をしっかりと明記して、そしたらどんなことができる、推進監に考えてもらおうかと思ったりもしますが、そんな感じのところの一つ悩みの種なんです。今、推進監も生涯学習フォーラムをちょっと作り直してもらっていて面白い感じにはなっているかなと。市原校長先生がおっしゃった高校生だったらこうだねというのを一つ地図にするというか、絵にしても面白いなと思いましたね。

市原委員　理想としては小中高でルーブリックをつくってみても面白いかなと。生涯学習フォーラムは本校が舞台で一定、深化・統合の場かなというふうに思ってい

まして、それはプロセスの中で今、小学校は小学校でやっているし、中学校もやっているし、高校でもやっている感じで、その連結するということではやっぱりきついなという気はするんですけど。そこが一定、ブリッジをどう捉えるかなんですけども連結できていたら目指す人材が育成できるんじゃないかなという気はしますね。

上村委員

ちょっと話題が変わりますが、うちの学校へ毎日のように地域の方が来てくれて調理室は大賑わいみたいな感じですけど、ときどき学校のパソコン室を使って遠隔で自分たちで学習したいからと言って、市内とつなげてテレビ会議をやったり、そんなこともしてもらっています。学校というよりは公民館的な動きもあるんですけど、そういうふうな姿を子どもたちが見ているんですね。さっきの植村先生の話にもあるんですが、探求とか、生涯学び続ける大人、そういう姿を子どもたちに見せれるので来てもらいたいんですよ。この創造のところにも生涯の部分に関係しているものはいっぱいありますけど、義務とか、高校、大学で完結するものではない、そういうふうな教育というものを香美市はつくっているというふうに自分はずっと思っているんですね。お年寄りの中でも家に閉じこもって全然出てこないお年寄りも、うちの母なんて散歩ぐらいのものですけど、どこかの何とか教室みたいなのに出掛けたらいいわとよく思いますけど、そういうところへ引っ張り出してくるというか、そういう力も香美市はあるのではないだろうかというふうに思ったりもします。ここなんかは特に学校教育をベースにしながらつくってきた歴史はありますが、生涯学び続けるというところできり上げた振興基本計画なので、その点も大事にしながらということ、探求というのは非常にキーワードになってくる、学園都市というのも非常にキーワード、生涯学び続ける、探求がわきおこるまちというキーワードも香美市は持っているんで、そういうのを盛り込めていけるような振興基本計画になったらいいなというふうに思います。学校教育のほうからはちょっと離れて思っているんですけども。

白川教育長

楮佐古さんにもちょっと教えていただきたいんですけど、さっき植村校長先生がおっしゃっていたスポーツ少年団とか、地域のスポーツの中で学校もやっているし、地域からも育てていただいているところをうまくこの中に取り入れたいなというふうに思いますけどどんな感じでしょうか。

楮佐古委員

今、でも少ないですよ、スポーツ少年団がだんだんだんだんなくなって、私は物部のほうですけどもう全くないので、ちょっとそこが想像が付きませんが。地元の代々スポーツしている先生に教えてもらってというような地元社会との関りもあるので、そういうところがあつたほうが良いとは思いますがね。

中村委員長

人口が減少して構造的にシステムが崩れてきているときに学校だけが担ってくるような構造が一時期あつたわけですけど、それをもう一度、地域と全体で支えようということで捉え直しをしているわけですよ。そうすると芸術の領域とか、体育の領域とかというのがそこを構造的に支える環境をどうつくる

かということが今課題で、それでクロスして中学校や高校の部活の問題とかも出てきているわけですね。全体に働き方も改革したうえで地域の中で育ってきた文化みたいなものを維持するのにどうしたらいいかといったときに、やっぱり新しい形態を考えていかないと、古い体制のままを維持しようと思うと無理なんだと思うので、そこでイノベティブな転換が必要なんだと思うんですね。人とのつながりの仕方とか、組織のつながりの仕方は変えていかないといけないと思うので。デジタル的な使い方をせざるを得ないので、先ほど上村先生が言われたみたいに、いろんなところでオンラインでつながって、相互に連携していった情報交換しつつ体制を整えていくというようなことをやらざるを得ない状況なんだと思うんですね。

内田副委員長 私自身の専門は社会教育、生涯学習ですから今の議論については大変いいなと思いつつ伺っているわけですが、ただ往々にしてはこういう振興基本計画があって、一番下のところだけが生涯学習、あるいは社会教育課が担当する、基本的にはほとんど学校教育計画としてつくられてくるというので、基本的にはそういうスタンスが多いので、そうならざるを得ないと思うんですけど、今の論議というのは非常に大事なところで、例えば私もずっと思っていましたけれども、学ぶ、つながる、未来をつくるというのは、これは学校教育だけじゃなくて大人も含めてすべて市民に必要な事柄なわけですね。生涯学び続けるという言葉も今ありましたけれども、だから全部に実は学校教育と社会教育の政策というものがあるわけなんですけれども、それはそういうふうにかなくていいんですけれども、そういうふうにしたという話をちょっと。

それから、もう少し具体的に探究という言葉は私も「探求のまち」と言ってきたわけですから、それは前面に出す必要があって、それは子どもも大人も探求するという、そこはやっぱり外せないんじゃないかなというふうに思うわけですね。探求というのは、やっぱり自らの必要性に基づいて学習資源を使いこなすという、ある種、非常に卓越した力を持っている人なんですよ。委員長おっしゃっていたように、まさに探求というのはそういう卓越性を持った人を育てるんだという意気込みが必要だし、そういう意味ではまさに探求をどこに出したらいいかなというふうに思いつつ伺っていますけれども、その点では具体的な話になりますけれども、主体という言葉は私はよく主体性とか主体形成とか、社会教育はよく言うんですけれども、いわゆる探求的に学んで、人と協働ができて新たなものを生み出せる人のことを主体性があるというふうに呼びたいわけですね。学ぶというところに主体という、以前は自主と言ったわけですが、あえてここに探求というふうに言って、学ぶということは探求することなんだという理解をもっと出して、そして協働しながらそれをつくり出すわけですね。芸術やスポーツの世界にも当然、子どもたちと協働しながら探求をつながりをつくりながら深めていって、結果的にはそれが未来を創っていくんだという流れになるんだろうというふうに思うんですね。そうすると、主体という言葉がどうもしっくりこなくて、いろんな使われ方が

あって、あまりいい表現じゃないんじゃないかなと思ったときに、じゃあ何があるかなと分からなくて、探求をあえて入れて、探求し協働でものをつくれる人を育てるといった感じかなと思います。基本理念のこともあまり変える必要はないですけども、郷土を愛し、未来を創る探求人の育成なんですよ。ちょっと硬いですかね。要は未来を創る人づくり、何かここにもう1つ欲しいんですよ。郷土を愛し、未来を創る卓越した人材の養成とか、もう1つ言葉が足りないかなと思ったときに探求人とか卓越した人とか、そういうふうになんかちょっと感じてというのが全体に、生涯学習、社会教育をやってるものですからなおさら。皆さん同じことを言っていると思います。

白川教育長 内田先生のご指摘はものすごく私は嬉しいです。私、ものすごく遠慮して「学ぶ！」のところをやっと主体、探求的にしてよと入れたんです、なかったんです。括弧のところを主体にしてとかごちゃごちゃ言ってたけど本当は先生がおっしゃっていただいたように、ここに探求を入れたかったんですね。

上村委員 探求、すごくいいと思います。説明の中にも探求の言葉が入っていて、すごく分かりやすいし、すごいしっくりくるので。

白川教育長 すごく嬉しいです。何となく遠慮もあって。

上村委員 一番最初の基本目標の1のところを探求という言葉がどんと入ってきたら全体が感じが変わってきますよね。

白川教育長 ありがとうございます。すごく素晴らしいご助言をたくさんいただいて。すごくいいと思います。言わなきゃいけないところはそこだというふうに思います。分かっていたできやすいですね、メッセージとして。

中村委員長 あと、全体の構造を補完的に並べてどういう表現を入れたらいいのかなという事は悩ましいんですが、香美市内のいろんな生涯学習、学校教育とか経営のほうの運営協議会とかも見させていただいて、課題の1つかなと思うことにいろいろあるわけなんですけど、例えば図書館でいうと、できた当初は予算をかなり増やしていただいて、新しい図書館がつくって充実しつつあるんですけど先日、運営協議会に出たら既に新刊を買う予算が半減しているとかということで、どうなってるのかなと思うし、各学校を回らせていただくと、高校とか県立のところも見させていただいても同じなんですけど、予算が足らなかつたり、人材が足りないとか、教諭不足とかということで学校側が希望している人員をそのまま県教委がくださっているわけでもないし、市のいろんな学校レベルに行っても、幼保を見ても、どこもぎりぎりで行っているというような状況で不足しているのに、どなたかが病気になられると他の先生方でカバーしているというような状況で、本来であれば学校運営協議会とかが予算権を持っているはずなので、学校長に言って独自に自分たちでお金でも稼いで人員を一人でも増やすとか、いろんなことが手立てができるはずなのに、全くそういうことが手付かずの状態が進まない。基本的な組織で配られたものだけでやっつくみたい。その範囲内でやっくいけないうのが問題なんだというような認識で自分たちから取ってくるというようなことをしないですね。学びと同じで。

こんな状態でいいのかなと思うし、このままの状態では矮小化していったら本当に今の組織形態が全部運用できるのかなと。ほとんど予算がなくなっていったら枯渇するんじゃないかなというのは、未来が見えるんですね、本当につくれるのかどうか。そういうときにやはり組織が自主性をできるだけ最大限に発揮して創意工夫をして、例えば図書館では雑誌を企業に購入してもらって企業の名称をラベリングしてCM化する代わりに不足している分を雑誌数は下げないで寄付してもらおうというような作業をもっと前からどんどんやってくださいと言ってるんですけど、ただ幾つかやり始めたんですね。非常にありがたいことだと思うし、私は空いてる時間に週に1～2回、香美市に来ますから図書館に寄ってコーヒーを100円も200円も飲んでるんですが、これじゃなかなかプラスにならないんだと思うんですけど、ちょっと2杯ぐらい飲んでお腹をたぶたぶさせながら大学に行くんですが、週に400円ぐらい入れていけばちょっとは役に立つのかもしれないと思ったりもするので、あれもいろんな食べ物も食べられるコーナーをつくって、土日には売り切れると言ってるので予算化できるんじゃないですか。そういうことがいろんな組織で自発的に行われていって、いろんな組織で支援できるような体制というのが香美は他の地区と違っていっぱいあるよねというような状況にならないといけないのかなと思ってますね。

先ほど言われたように青少年の組織は物部地区で不活性な状態になっているのであれば人的支援とか、財政的支援ができるような構図というのをいろんなところで考えていかなきゃいけないと思うんですけど、そういう自主性とか大人の学習というのが結実したような形式になるような組織形態を考えているかということ。この案ではまだそこまでいってないんじゃないかなと思うんですね。でも次の10年はそこへいかないと、この市は活性化しないんじゃないかと私はちょっと危惧するところで、やっぱり自主的にいろんな組織が運営協議会を持って不足しているのであれば財源をちゃんと補って自主的に運営するような覚悟とか気概が必要んじゃないかと思うんですけど。特に社会教育の機関とかにはそういう機関があるんじゃないかと思うので、何かそのことを見通したような表現でも入れてくださると、ちょっと覚悟が違うよというところが示せるんじゃないかと思うんですが。と、ちょっと私は思いました、とにかくいろいろ回ってみて。先日、物部、香美市から三嶺に上ってきたんですけど結構、本当に今言われたように落ち込んでますよね。いろんな地区のところを見たんですけど使われていない。いろんな遊び場とかもそうですし、本当にそのままの状態。あるところでは落石が随分あるんですけどほったらかしですね。あそこで子どもは遊べないなという状況のところとかもありましたし、実際に目の当たりにすると人手も財政的措置も足りてないんだなというのがよく分かるので、そういうところも考えているというような表現は入ってもいいのかなと思いました。教育委員会にはきつい言葉かもしれませんが、委員長として一言言わせていただきました。

ちなみに学校運営協議会で進んでいて、そういうことができるようなモデリングができるようなところとかはないんですかね。

白川教育長　　できると思います。大柝も物部もできると思います。かなりいっぱいできますね。コロナでちょっと停滞していたというのはあるんですけど、運動会が始まりまして、この前、山田小へ行ったんですけどジュース買って、ジュース買ってと小さいことかもしれないですけど保護者の皆さんやっぱ必死です。運営協議会の人も、儲けようという、主体的に。

中村委員長　　産業とかお金を稼ぐ活動というのは意味があって、子どもにとってはいいことなんだというのを教えることも必要だと思いますね。結局お金の使い方なので、善行を行うために使うのであれば非常にいいことだと思いますから、それを積極的に推進するような実践的教育というのを行われるべきだと思います。

白川教育長　　今年は自立する学校づくりイノベーションということでスタートしまして、校長先生たちが非常にしっかりしていらっしゃるんで、そういうことをお伝えすると、もう既に自立した学校ですので、中村先生からもご指摘いただいでいて、全体研修を減したんですね。そうすると各校がそれぞれの特性を生かした研修をもう確実に打っていただいでいて、そこはありがたいかなと思いますけど、儲かる運営というようなところですね、大事な視点だということをすごく思います。

中村委員長　　今いらっしゃる人的資源だから物を言わせていただいでいるので今ならできるんじゃないかなと思っているんですね。今、本当に人材もそろっているし、いろんな方を雇用していただいでいるので、ここ10年でできなかつたらちょっと厳しいんじゃないかなと思いますから。他ごございませんか。美術館のほう何か。

山本委員　　体系的なお話にはなかなか入りにくいところがあるんですけども、美術館もさっきお話に出てきましたように公民館とかと同じように足を運んでもらうということが課題である中で、行きたいけど行けないという人の入場料の保険とか、そういう案も運営協議会のほうでも出ていたので、そういうお金をつくるということができたら、そういうところからも働き掛けができるかなと思ひまして。

中村委員長　　遠慮されてあまり言われなと思うんですけども、実は図書館と一緒に保管庫の課題がずっとあったんですね。10年ぐらい前から。結局、図書館のほうは切り離してつくるということになったので保管庫の課題はそのままでしょう。入らないし、質を保つための十分な施設設備になってないのに寄付はいただいたり、いろいろ●●がある状況ですね。どうするのかという問題はあるんですけど何も方針は。

事務局　　収蔵庫問題はもうちょっとしたら解決しそうです。調理室が同じ階にありまして、そこを改修したいなということで設計の予算を今度の6月補正のほうに上げているので土佐山田美術館の収蔵庫に関しては解決の見通しが今、出始めております。ただ、物部の小原さんの分はまだちょっと。

中村委員長 あのままでですか。
事務局 美術館長とか市長とかもいろいろ動いてはくださっているようですけども、まだちょっと。主体が物部なので、ちょっとそこまで私たちも踏み込めないところはありますけれども。山田のほうは解決しそうな動きです。

白川教育長 プランはあります。
中村委員長 絵はそのまま放っておくと朽ちていくので早めに手当てをしていただければと思うんですけど、進んでいるのであれば少し安心しました。門外漢なので何も分かっていませんでした。ちょっと気になっていたのです。

白川教育長 物部の学校協働本部が先日もあって素晴らしい三嶺とか次郎笈だとかたくさん山々がある中で、ぜひ学校に登山部をつくってもらいたいと私がずっと前からお願いしていたんですけど、そしたらやっぱり協働本部や地域の方々の中にはプロの方がたくさんいらっちゃって、特に山村留学生を受け入れのときにお手伝いいただけるということですのですごく楽しみにしています。山岳、私はやったことは全くないんですけども、私の教え子が土佐高に行ったときに山岳部に入って数学だとか、地理的な読みをしていくとか、コンパスを使ってすごく楽しいということを知っているんですよ。なかなかただ単純にただ登るだけじゃないんだなと。いろんな気候条件ももちろんですけども、すごく探求的だなと思って上村校長先生にいつも無理を言って、やっと実現に近付けていただけて、そのところを。

楮佐古委員 すごいですよね。
白川教育長 ちょっと心配したんですけど、安全性なんて心配ないと。どんな山でもあると。登山する人たちに合わせた登山になるから心配ないということを知っていただけて楽しみにしています、上村先生。そういうところも出てきてはいるんですけど、なかなか十分に支援ができていなくてまだ形になってはいないんですけど、そういうプランも描いたりしています。

上村委員 山村と絡めてというところで、1つの売りになればと。
中山委員 ちょっと話がそれてしまうかもしれませんが、「未来を創る！」(2)番のところの①の取り組みのところ最後の括弧の中にはちょっとあるので、保育園も仲間入りするのかなと思いつつながら、ただ学校名のところには全然、保育園というのは位置付いてないんですけども、皆さんのお話を聞いて、まさに探求のスタートは就学前からスタートしているんじゃないかなと思ったときに前回の会ぐらいにも発言させていただきましたけれども、個々の子どもの興味・関心というのは違うので、そこに合わせた遊びを面白がっていく、追及していく、その子の課題に応じて面白がっている部分に添いながら、もっとこうするとさらに面白がれるよというようなところを園の中の先生方の力だけではやっぱり難しいと思うので、ここに挙げられている方たちと何か日常の遊びがより面白がっていける、あるいはつくっていける、自ら遊びをつくっていくということ自体が非常にその後につながるんじゃないかなと思うので、やり方はいろいろあると思うんですけど、一斉活動でコラボするのもありか

とは思いますが、そうじゃなく本当に自由にそれぞれが自分の興味・関心に基づいて遊んでいるような場面にコラボで来ていただいたり、刺激をしていただくというか、また来てもらいたい人の存在というか、それが上の学校に上がっていったときに専門分野に分かれて、そういうようにつながっていくんだなというような学びの分解図というのか、そういうものがここに存在すると非常にいいのになと思いつつ資料を見ていました。

中村委員長 文章として保幼を入れるということですね。それからいろいろな先生方から言われていたみたいな段階的な連続性とポートフォリオ的なものがイメージで入っていてどうつながるかとか、具体化するようなことが入ればいいのかなと思うんですけど。他はございませんか。大体いい時間になっていると思うんですが、ご意見ないようでしたら事務局にお返ししようと思うんですけどよろしいですか。

事務局 中村委員長、ありがとうございます。1つ補足といたしまして、次回の会議につきましてお伝えさせていただきます。さきに策定スケジュールの際に説明いたしましたが、第6回の検討委員会を7月中に開催したいと考えております。当日は令和5年度の取り組みについてと、本日の議論を踏まえまして次期教育振興基本計画の骨子案につきましてご報告させていただき予定でございます。日程を調整させていただきまして詳細をご連絡させていただきますので皆さまご臨席をよろしくお願いいたします。それでは閉会にあたりまして内田副委員長から一言ごあいさつをよろしくお願いいたします。

内田副委員長 先ほど探求という話が出ておりましたけれども、探求というのはさっきも申しましたように、自らの必要性に応じてその教育資源等を使いこなす卓越した力だというふうに申しましたけれども、これは実は内発的な力なんですよ。委員長おっしゃったように組織の内側からわいてくる内発的な力なんだということですよ。だから探求を大事にするということは、実はそれぞれの組織が自らの必要性に応じていろんな提案を出していけるということを意図しているわけで、決してみんなこうなさいと言っているわけではないということころは非常に大事なところで、社会教育においてもまさにいろんな運営審議会とうのがもともと法律上あるというのは、役所の人や公民館の報酬を決めるわけじゃなくて、利用者や住民が公民館運営審議会です。どういふ公民館にしていこうかということをおもなで考えていく内発的な力を求めているからであって、そういう法律にもともとあるわけですけど、そういう意味で探求というのは内発的な力なんだということをおも改めて感じたわけです。

それで、ちょっと長くなって恐縮ですけども、そもそも教育とか学習というのは習慣なんだというふうにデューイなんかは言っているわけですよ。習慣というのは別に意識的とか意図しなくても思わず日常的にそういう行動が繰り返されるといふのが習慣なわけですけども、教育とか学習というのは習慣なんだと言っているところがあります。香美市の基本計画が大事にするのは探求ということですけども、次期の振興基本計画が最終5年のところで何を

物差しにして、これがうまくいったか、いかないかというのをはかるかと考えたときには、やっぱり探求が子どももそうですけど、市民に習慣化されたかということだと思えますよね。言われたからとわざわざ考えて探求的に動くのではなくて、もう日常的に物を考えたり、会話をしたりするときに探求的な物の考え方や発想、そういったものが身に付いているというか、習慣化されているというところが一つ、出口の話はまだ早いんですけど、出口かなというふうにも伺っておりました。

そういう意味でもう1点だけ申しますと、子どもたちが本当に生まれたときからずっと探求力を付けていく、そしてそれは生涯を通じて市民も同じなんだというふうに言っているわけですがけれども、実は最も探求力を付けてほしいのは行政職員じゃないかというふうに思うところがあります。社会教育というのは地域づくりとかまちづくりと非常に関連があるので教育委員会の中に閉じこもっているのではなくて、いろんな部署に探求的学習をどう持ち込むかというのが大きな役割なわけですがけれども、そういう意味で行政の中に探求する職員が増えるということが、先生がずっとおっしゃっているこの先の香美市の状況というのを担保するんじゃないかなというふうに改めて感じておりました、今から議論が始まってもいけないので、何を言おうかなと思いつつも余計なことを言ってしまいましたけれども終わりのあいさつとさせていただきます。ただ、今、皆さんそれぞれ興奮して話していますから、事務局のほうではもう一度、頭を冷やしていただいて次の案をつくっていただければよくて、やや言い過ぎたようなところもありますので、頭が冷めたところで考えていただくというところで、また次回につながればなと思っております。あいさつになったでしょうか。また今後ともよろしく願いいたします。

事務局

誠にありがとうございました。それでは、以上をもちまして令和5年度第5回香美市教育振興基本計画検討委員会を終了いたします。ありがとうございました。

閉会